

「ファミリー・フレンドリー企業部門」東京労働局長優良賞

ポケットカード株式会社 に

インタビューに行ってきました！

「フレンド社員」（契約社員）も育児休業を取得でき、正規・非正規、男女を問わず、多くの労働者がいろんな両立支援制度を利用しているポケットカード株式会社。毎週水曜日のノー残業デーの徹底など、男女労働者が仕事と家庭の両立しやすさを実感できる取組が特色ではないかと考え、インタビューに行ってきました。

担当の方に応募のきっかけを聞いてみると、「仕事と家庭の両立の取組は以前から行っていましたが、最近ニーズが増え、利用実績という結果につながったので応募してみました」

と、あくまでも自然体。育児休業から復職したマネージャークラスの女性からは、「フルタイム勤務をしつつ定時退社で子供のお迎えに向かう充実した毎日を過ごしている」との声、部長クラスの男性からも、1男1女の育児を夫婦協力して行っている様子を聞かせていただきました。

社内報で掲載されたアンケート結果（右写真）でも、仕事とプライベートのバランスは自分の理想に近いものとなっており、社員の満足につながっている取組に好感が持てました。



↑ 社内報の特集記事

■ トップからのメッセージ（代表取締役社長：渡辺恵一氏）

弊社のワーク・ライフ・バランスへの取り組みを高く評価いただき、誠にありがとうございます。
ございます。

女性従業員の比率が高い当社において、従業員が一度身につけたスキルを無駄にすることなく、慣れ親しんだ職場への復帰を可能にする育児制度の充実は、会社のみならず従業員にとっても大きな利点になると考えております。また、所定外労働の縮減や年次有給休暇取得推進を図ることで、ON と OFF のメリハリある環境づくりを促進し、仕事と家庭の両立支援に取り組んでおります。

今回の受賞を謙虚に受け止めるとともに、今後も引き続き従業員が働きやすい環境および風土づくりに努めてまいりたいと考えております。

■ ご担当者の声

ワーク・ライフ・バランスに係る制度について、周知の強化や、理解を深めるための学習機会を設けるなどし、制度を利用しやすくするための環境づくりに注力しました。

特に育児休業関連制度については担当部門より適用対象者に対して能動的に情報提供を行い、実績づくりを図ってまいりました。

現在では、育児休業から職場復帰にいたるまで、自然体で受け入れられる風土づくりの実現に向け、確実に前進していると考えております。

ワークライフバランス
健康や環境問題など

ワークライフバランス
男性育児休暇制度

「ワークライフバランス」という言葉が最近よく聞かれますが、この言葉の意味をご存じでしょうか。ワークライフバランスが生まれたのは、80年代のアメリカです。企業が生き残り、不況として浮かんできたのが社員として浮かんできたのが社員の仕事と私生活の両立支援です。家族と楽しい時間を過ごすという環境でこそ実現した仕事ができるのではないかと考えます。仕事とプライベートを両立させることは難しいことですが、時間内に任務を遂行できるような仕事を進め方を

見直すべきかもしれません。結果の悪い仕事は、会社の生産性UPにつながるのではありません。趣味・旅行・友人へ向けた交流・育児サービスなどさまざまなライフスタイルの選択肢がありますが、今回は男性の育児参加をとりあげたいと思います。

共働き世帯が増加している現代社会では、夫の育児支援が必要不可欠となっており、当社でも男性の育児休暇制度を設けています。しかし、この制度の利用者はまだまだ少ないのが現状です。そこで、仕事とプ

男性の育児休暇制度
制度概要
配偶者の出産で、1歳未満の子を持つ社員（グローバル、エリア、年功）を対象とした育児参加を支援するための制度であり、3日間の特別休暇（年給）が取得できます。
詳しい手続き方法については、人事総務部研修室までお気軽にご相談下さい。
TEL：03-5441-1923

お質疑センター
星加幸寛センター長

妻が育児休業中で、初めての育児は大変でしたので、もっと家族と触れ合い家事を手伝いたく、育児休暇を取得しました。予防接種や定期健診にも一緒に行き、子どもの成長過程を共有できることで仕事への活力の源となりました！

近藤典二 支店
武智晴彦 支店長

男性育児休暇制度の記事（社内報）

■ 女性労働者（マネージャー）Aさんの声

私は育児休職から復帰後、時短勤務を経て現在フルタイムで勤務しています。週1度のノー残業デーのみならず、残業を善しとしない雰囲気が社内にあるため、メリハリよく仕事をし、定時退社で子供のお迎えに向かう、充実した毎日を過ごしています。

また著名人を招いてのワーク・ライフ・バランスに関する講演会も開催され、仕事もプライベートも充実させる極意を学びました。私も充実したワーク・ライフ・バランスを実践していきたいです。

■ 1男1女の父／担当部長Bさんの声

2007年に長男が産まれてもうすぐ3歳になります。1歳になる頃から風邪や急な発熱、とびひ等病気になることが多くなったため、どうしても保育園を休ませなければいけない事もあり、妻と協力して看護しております。

またこの8月に長女が誕生しましたが、妊娠中のつわりがひどい時にも、上司・同僚の協力があり看護休暇を取ることができました。

子育てには急に面倒を見なければならぬことも多々ありますが、休暇が取得しやすい職場の雰囲気ということもあり、安心して勤務出来て助かっております。